

ネパールヒマラヤ、ジヨムソン地域のテチス堆積層の横臥褶曲構造

Recumbent folded structure of the Tethyan sedimentary successions in Jomsom area, Thakkola, Nepal Himalaya

鈴木 茂之 [1]; Dhital Megh Raj[2]; 吉田 孝紀 [3]; 川村 寿郎 [4]; 山中 晶子 [5]

Shigeyuki Suzuki[1]; Megh Raj Dhital[2]; Kohki Yoshida[3]; Toshio Kawamura[4]; Akiko Yamanaka[5]

[1] 岡大・理・地球; [2] トリブバン大; [3] 信州大・理・地質科学; [4] 宮城教育大; [5] 信大・理

[1] Earth Sci., Okayama Univ.; [2] Toribhuwan Univ.; [3] Geology, Shinshu Univ.; [4] Miyagi Univ. Edu.; [5] Science, Shinshu Univ.

ネパールヒマラヤ西部のタッコラ地方、タウラギリ河沿いのジヨムソン地域に分布するテチス堆積層の褶曲構造を解析した。本調査は科学研究費によるプロジェクト「テチス海南部における三畳紀環境変動の解析」(吉田孝紀代表)の一環で行われた。褶曲構造や断層の解析は、三畳系の連続セクションを決定するうえで不可欠である。本地域内では地層を変位させる断層は見いだされなかったが、地層は変形しており以下のような横臥褶曲構造が明らかになった。

本地域を構成する地層は下位からペルム系 Thini Chu 層、三畳系 Tamba Kurkur 層、Mukut Limestone 層、Tarap Shale 層、Quartzite 層、ジュラ系 Jomsom 層からなり、これらは南から北に順に配列する。これらの地層の走向は E-W から ESE-WNW 方向であるが、北と南に傾斜する。級化構造や斜交葉理などによって地層の上位方向が判定できるところでは、北傾斜ではいずれも正常位で南傾斜では逆転を示す。すなわち北側が上位であることを示している。下部の泥岩優勢な地層では小褶曲構造が観察され、横臥褶曲をなしている。このほぼ水平な褶曲軸面に平行にスレート劈開が形成されている。上部にあたる北部ではジュラ系 Jomsom 層の大露頭があり、地層は横臥褶曲をなしている。

以上のことから本地域の三畳系を主体とする地層は横臥褶曲の向斜構造をなしている。翼間角は 60° から 80° でそれほど閉じていない。テチス堆積層の碎屑粒は石英に富む大陸由来のものであることから、インド大陸が隆起していたことがわかる。褶曲作用の始まりはテチス海よりもインド大陸側が隆起していた時期にさかのぼるであろう。おそらく白亜紀後期にスレート劈開形成を伴う褶曲作用がおこったと考えられる。テチス海側のヒマラヤが隆起する際に、この褶曲構造は持ち上げられ、軸面が水平な横臥褶曲になったと推測される。

